

天文学とプラネタリウム 第18回

”あすとろかるた”鋭意制作中!

天プラ企画書 on 星ナビ

- 天プラ式観望会報告 -



高梨直純 (東大D1/天文学教育研究センター所属) 平松正顕 (東大D1/国立天文台ALMA推進室所属)

小学校に出張観望会で出かけた天プラメンバー。都心の明るい夜空から遠大な宇宙に手を伸ばしてみました。

都会の夜空に

西には新宿副都心の夜景が輝く小学校の屋上に、子供たちの歓声が響きます。今日は半月と夏の夜空を楽しむ観月会の日。めったにない夜の学校ということで、子供たちもおおはしゃぎです。天気予報では曇りとあいにくの空模様も子供たちの期待に添えてくれたのか、空には惑星や夏の三大三角形がきらめきます。天プラのメンバーが、東京都杉並区にある高井戸第二小学校で開催された観月会のお手伝いに行ってきました。

次第に広がる薄雲が地上の光を反射するような悪条件でも、次々と導入される月や惑星、二重星たち。初めて見る月のクレーターや色鮮やかな一等星に、子供たちはもちろん付き添いの親御さんたちからも感動や驚きの声が上がります。子供の興味をひきつけることはもちろん、家族ぐるみで天文とお付き合いしてもらうためにはやはりお父さんお母さんたちも天文に興味を持ってもらわなければ。私たちはそう考えています。

観望会では、プロジェクターを使って壁に当日の夜空の様子などを投影しました。一般には

望遠鏡の横に明るいプロジェクターなんてとんでもない! のかもしれませんが、ここはうす雲の都心の観望会、空も観望会参加者の顔もしっかり判別できるほどの明るさです。観望の邪魔というよりはむしろ、ステラナビゲーターで今日の夜空を映し出し、そのまま見上げて実際の夜空と見比べるととてもわかりやすい! と評判でした。空が明るい都会では奥行きを感じられる星空を見ることが難しいのですが、実際の空とコンピュータ上の宇宙を見比べることで、こっちは新しい星がどんどん誕生している領域が、あっちには星の大集団・球状星団が、と、ダイナミックな宇宙を感じることができたようでした。

3等星すら満足に見えない都会の夜空。でも、その向こうには遥かな、そして謎と面白さが詰まった宇宙が広がっている。好奇心いっぱいの子供たちの記憶の中に、あの日垣間見た宇宙が広がっていきますように。



ステラナビゲーターによる星空解説に興味津々の子供たち。今日の夜空のほか、各種天体解説にもプロジェクタは大活躍。



国立天文台(三鷹)の赤外シミュレータで実験中の高梨(左)。この望遠鏡は、今度広島大にお引っ越しです。/年に一度の国立天文台野辺山ユーザーズミーティングに来た平松(右)